

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ア	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	施策	② 情報社会に対応した教育の推進	
			施策の小項目名	—	
主な取組	未来のIT人材創出促進事業(ITジュニア育成事業)			実施計画記載頁	394
対応する主な課題	③加速度的に進展する高度情報通信社会において、情報通信技術やITリテラシーは今後生きていく上で欠かせないツールとなっていくことから、情報教育の更なる充実や、教育の情報化を推進する必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
県内の小中学生に対する情報通信関連の教育を実施することにより、本県の将来の情報通信関連産業を担う人材を育成する。		出前講座・企業訪問・親子ロボット教室等開催 40回				→
実施主体	県等					児童向けIT体験教室等を通じた幅広いIT教育の機会提供
担当部課【連絡先】	商工労働部情報産業振興課 【098-866-2503】					

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 未来のIT人材創出促進事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	10,272	15,218	39,008	35,000	43,923			○H29年度: 企業や学校と連携し、小中学生を対象に、IT関連産業への関心を高めるためのワークショップ等を開催した。 ○H30年度: -
予算事業名 未来のIT人材創造事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
							47,514	内閣府計上	○H29年度: - ○H30年度: 企業や学校と連携し、小中学生を対象に、IT関連産業への関心を高めるためのワークショップ等を開催する。

様式1(主な取組)

活動指標名	出前講座・企業訪問・親子ロボット教室等開催				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	62回	40回	100.0%	43,923	順調	ロボット教室など児童向けのワークショップ等を22件開催(参加者数593人)することにより、小中学生等のITへの興味を喚起した。 また、出前講座や企業訪問等を40回実施(参加者数1,793人)することにより、高校生等のIT業界への関心を高めた。
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠と取組の効果  ロボット教室など児童向けのワークショップ等を22件開催(参加者数593人)することにより、小中学生等のITへの興味を喚起した。 また、出前講座や企業訪問等を40回実施(参加者数1,793人)することにより、高校生等のIT業界への関心を高めた。
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
①講座等の参加率の向上や情報教育の拡充を図るため、引き続き、教育庁等の教育関係部署と連携し、受講者が興味や関心の持てる講座の内容や提供方法の検討等を行い、情報通信関連教育の更なる充実化を図る。  ②引き続き、本島だけでなく、宮古、八重山等の離島地域でもIT関連のワークショップやシンポジウムなどを開催し、参加者のIT産業への興味や関心、理解を深める取組を推進する。						①ロボット教室やクレイアニメ教室などの参加者が興味や関心を持てる講座を実施したほか、教育関係部署と連携して参加の呼びかけを行うなど募集方法の検討を行い、参加率の向上や情報教育の拡充を図った結果、ロボット大会の全国大会で県勢初の優勝チームが輩出されるなどの成果が出た。  ②宮古、八重山等の離島地域でもワークショップやシンポジウムなどを開催(宮古島:8件、石垣島:9件)し、将来、離島地域のIT関連産業を活性化することのできる人材の育成・確保を推進した。				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・ワークショップ参加者の中には、基礎的なITスキルを既に習得している児童・学生も一定数参加するようになっており、習得した技術を活用したいというニーズも高まりつつある。

##### ○外部環境の変化

・島しょ地域における地理的不利を克服する手段として、ICTによる課題解決が注目を集めており、離島でITを利活用できる人材のニーズが高まっている。

・社会インフラにおけるITの活用が進み、将来的なIT人材不足が予測される中で、次期学習指導要領改定で新たにプログラミング教育が必修化されるなど、情報教育の重要性が高まっている。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・ITの面白さやスキルをインプットさせるだけでなく、習得した技能を活かして児童・学生がアイデアをアウトプットできる場を提供する必要がある。

・地理的不利を解決する手段としてのITの重要性を、若年層のうちから啓発する必要がある。

・プログラミング教育必修化に伴い、ITリテラシー学習に対する注目度が保護者や学校関係者等で高まっていることから、これらのニーズや課題を取り込み、より学校関係者との協力を強めていくことが求められる。

### 4 取組の改善案(Action)

・既存のロボット大会やIT広報イベントと連携し、児童・学生のアイデアを表現するためのコンテスト等を開催する。

・引き続き、本島だけでなく離島地域でもIT関連のワークショップや出前講座等を開催し、IT産業への興味や関心、理解を深める取組を推進する。

・教育機関等に対してプログラミング教育必修化に関するアンケートを実施し、学生や教師の要望や課題を開拓する。